

第37回大学教育学会 ラウンドテーブル 「ルーブリックの組織的導入と活用」

関西大学の事例紹介

小林 至道（関西大学 教育推進部）
nkoba@kansai-u.ac.jp

2015年6月6日（土）
於：長崎大学

目次

1. 導入単位
2. 推進部局
3. 導入に至った動機・理由
4. 特色・特徴
5. うまくいっている点
6. 今後の課題

1. 導入単位

⇒最終的には、全学展開を目指している

⇒現状（2014年4月～2015年6月現在）

- **6学部**（現在調整中の学部が2学部）

→文学部、社会学部、政策創造学部、社会安全学部
システム理工学部、教育推進部（外国語・経済）

- 2015年度は49クラスで実施（今後2クラス増加予定）

1年次：36クラス

2年次：11クラス

3年次：1クラス

4年次：1クラス

参考 関西大学 データ

- ⇒ 学部数：13
- ⇒ 学部生数：28,459
- ⇒ 専任教員数：747
- ⇒ 非常勤教員数：1506
- ⇒ 授業科目数：12,767（うち非常勤5859）

～「関西大学 学の実化」データブック 2014より～

2.推進部局

教育推進部

- ・ **2008年10月、教学体制の改編により設置**
 - 共通教養科目の推進
 - 教学にかんする諸問題の全学的な調整
 - 学部教育の授業支援や教育開発
- ・ 専任教員と特任教員が中心となり取り組んでいる

3. 導入に至った動機・理由

⇒ 2012年度～大学間連携共同教育推進事業（G P）

→「評価指標の確立」が柱の一つ

- ①ライティング力向上を客観的に測る評価指標の作成、活用
- ②自己の学びを振り返る自己評価指標の作成、活用

⇒ 2014年度～大学教育再生加速プログラム（A P）

→「学修成果の可視化に向けた評価指標の開発」

- ①学修行動・到達度調査の項目検討・実施・分析
- ②コモンレーブリック開発及び開発に向けた調査

4. 特色・特徴

1. 全学的な調査を踏まえての評価指標の作成

→ディプロマポリシーの分析

→学士課程教育で重視するコンピテンシーにかんする
調査・分析

2. 学部授業との連携による組織的活用と改善

→共通教育科目、学部単位の必須科目との連携

→教員のニーズをヒヤリングし、カスタマイズ・改善

⇒ 大学として求めるコンピテンシー・評価基準の可視化

→ ルーブリックによる具現化

① 教員による評価

② 学生自身（同士）による評価

⇒ 入学時から卒業時まで段階的に学修目標・到達度を可視化
・ 学年ごとのルーブリック→学生の主体的学修を促進
→ 「何ができるようになったのか」の可視化

うまくいっている点

- ⇒ 「2年目で49クラス活用はますます」という認識
※ライティングとプレゼンテーションの併用が22クラス
- ⇒ 工夫してきた点（願わくばうまくいっている理由）
 - ①受付窓口の設定
 - ②教育推進部と学部授業との連携
 - ③教員向け F D の開催

⇒受付窓口の設定

→組織的運用のためには、窓口を明確にしないと進捗状況の把握が困難に

⇒教員向け F D の開催

- ・授業における活用方法の提示

→サンプルルーズブリックの提示、授業への導入事例の紹介

⇒教員がルーズブリックを導入するにあたり、活用場面を具体的に描きやすいように工夫

今後の課題

1. 教員への周知と理解
2. 多様な要望への対応
 - 新たなコモン / クラスルーブリックの作成
 - 既存のコモン / クラスルーブリックの改善
3. 学修効果の検証
 - 今後、協力クラスで実施できるよう設計中
4. ルーブリックをどう蓄積し、どう広めていくか
 - 案①：マトリクスとして
 - 案②：観点ルーブリックとして

ご清聴いただきありがとうございました

